

「高齢社会検定試験」と聞いて、何のこ
とかと思われた人がほとんどではないだ
ろうか。これは、一般社団法人高齢社会
検定協会が、本年9月に第1回試験を東
京大学駒場キャンパス（東京都目黒区）
で実施する、まったく新しい検定試験で
ある。

この検定試験は、個人の長寿化、社会
の高齢化に伴う課題を解決し、より豊か
な未来を築くために必要な知識を提供す
ることを企図して創設され、総論（試験
時間30分）・個人編（50分）・社会編（50
分）の3部構成になっている。受験にあ
たっては、①総論＋個人編、②総論＋社
会編、③総論＋個人編＋社会編の3コー
スが設定され、それぞれ個々に受験する。
総論の合格を前提に、加えて個人編を合
格した場合は「高齢社会エキスパート（個
人）」、社会編を合格した場合は「高齢社
会エキスパート（社会）」、個人編と社会
編両方を合格した場合は「高齢社会エキ
スパート（総合）」の協会認証資格（称
号）が付与される。

「ジェロントロジー」を共有知識に
なぜ、このような検定試験が創設され
たのか。日本は超高齢・長寿社会として
世界の先頭を歩んでいるが、国民の多く
は人生90年という長寿に対して漠然とし
た将来の不安を抱えている。社会は、人
口の高齢化に伴う多くの諸課題に対して
その解決策を模索している。こうした不

安・課題を解決するための知識が求めら
れるが、それを提供できる教育素材も学
習機会もなかった。「ジェロントロジー
（高齢社会総合研究）」こそその知識を提
供する素材となるが、日本でこれを学ぶ
には、東京大学や桜美林大学などの一部
の大学に通うか、または米国等に留学す
るしかなく、これでは社会に必要なこの
知識が広まるはずがない。そのため、「東

「高齢社会 検定試験」の ススメ

一般社団法人高齢社会検定協会代表理事
東京大学高齢社会総合研究機構特任教授
秋山弘子

京大学高齢社会総合研究機構」が中心と
なって、世間一般に広くジェロントロ
ジーの知識を広め、個人の人生設計課題
や社会の高齢化課題の解決に役立てるべ
く、本検定試験を創設したのである。な
お、東京大学高齢社会総合研究機構は、
本検定試験の公式テキストの制作・監修、
および一般社団法人高齢社会検定協会の
事業を研究の側面からサポートしている。

超高齢社会を生き抜くための 総合知

一方、この試験を受けて（合格して）
何の役に立つのか、という疑問を抱かれ
る人もあるかと思う。職業や何らかの技
能に直結するような知識を提供するもの
でなく、個人の人生設計と社会の高齢化
の課題解決のヒントを提供する「総合的
な知識（総合知）」を提供する性質である
がゆえ、具体的な効用が見えづらいとい
う面はあるかもしれない。しかし、年を
重ねると、からだはどう変化するのか、
どのような心理過程を辿るのか、健康長
寿に向けて何が必要なのか、高齢期の社
会・人間関係をどう考えるべきか、お金
や住居の対策をどうするか、親や配偶者
の介護が必要なときにどう対処すればよ
いのか、足腰が弱って移動が困難になっ
たらどうすればよいか、人生90年という
長寿に対する人生観をどうもつべきかと
いった個人の問題から、医療・介護・年
金等の社会保障制度をどうすれば維持で
きるか、住宅政策、移動・交通システム
を含めて地域社会およびコミュニティを
どのようにデザインしていくべきか、と
いった社会の問題までを解決するための
基礎知識を学べることは大変魅力的では
ないだろうか。あらゆる日常生活場面、
高齢者と接する場面、企業における商品
サービス開発場面、行政・自治体におけ
る政策立案場面など、多くの場面で本検
定で学んだ知識が活かされることを確信

する。

「総合知」の効用の証明は、国語・算
数・理科・社会を学ぶことの意義を証明
するのと同じく難しい。今後、本検定試
験に学んだ方々から、その知識をどのよ
うに活かすことができたか、具体事例を
収集させていただくことを通じ、さらな
る魅力づくりを図っていきたい。

1人でも多くの人に、ぜひ検定試験に
チャレンジしていただきたいと期待して
いる。東大の教授陣がつくった試験だか
ら難しいのでは？と思われるかもしれな
いが、難易度は高校卒業程度としている
ので安心して受験していただきたい。

● 第1回高齢社会検定試験 日時：9月14日（土）

会場：東京大学駒場キャンパス
公式テキスト：『東大がつくった高齢
社会の教科書』、東京大学高齢社会総
合研究機構（編著）、ベネッセコーポ
レーション、2013

申込み：第1回高齢社会検定試験受検
申込み用ホームページより
<https://www.kentei-uketsuke.com/gerontology/>

※このほか詳細はp.583を参照